

五月二十六日

十時大学。修士推薦面接。結局五人枠を守る。十二時前迄。十三時教室会議、十五時半迄。その後教授会に出席し、十六時過新木場トモコーポレーション社屋へ。大小とり混ぜての仕事が交錯して頭をクリアーしておくのに力がある。

十七時過新木場着。友岡社長と久し振りに会う。松尾建設はアフターケアをしてくれないといけない。ドア・エンジンが2ヶ所外れてブラ下がついていた。ステイル建具にビス止めの当たり前のデテールなのだが、こんな事は初めてである。ドア取付の職人がずさんなのか。飛行機のビスがこんなだったら大事故になっている。

猪苗代前進基地の進行状況を聞く。前進基地の話をしている社長は楽しそう、思わずこちらの顔もゆるむ。十八時過迄。新木場で研究室に戻る渡辺と別れ、世田谷村への帰途につく。二〇時前烏山のネパール料理屋ラ・パパスで夕食。モモチキンティカ他、飲物はヒマラヤククリラムを飲む。ネパール料理のファミリアレストランみたいな店で、若い人でにぎわっている。ネパール・カトマンドウのジニーは今、どうしているのだろうか。河口慧海が滞在したトウクチェの豪族の子孫で、ネパール有数のファミリアの一員だったが、タイのプーケットに土地を買い求め事業を起こそうとした最中にあの津波に遭ってしまった筈なのだが、消息は今は何ら得られぬ。二十一時世田谷村に帰る。ここの生垣は我ながら仲々良いのであるが、今年は夜目にもハコネウツギの花の

乱れ咲きが見事である。二十一時半、カバールーム一本書く。

「友岡さんの開放系技術建築」。ようやくこのウェブサイトに書きたい事が自分にも視えてきたような気がするが、明日になってみれば又解らないのだろう。やっぱり、モノがあつて、はじめて何か言えるのだな。この商売の宿命か。

五月二十七日

六時起床。朝刊二紙読む。日中関係への論評が明らかに保守寄りに転回している。いずれにしても中国側の国内事情の分析は米国の情報頼りで、二〇二〇年には中国、インドがアジアの中心勢力になる事は明白であるとしながら、そのシミュレーションに対する対応をジャーナリズム(マスメディア)は描けていない。政治家が描く事が出来ぬのだから、新聞ジャーナルはそれ位の事はしなければ。どうやら一番腰が据わっていないのは新聞ではないのか。信用できない。

十時研究室、レクチャー準備。十時四〇分から十二時過まで大学院レクチャー。イギリスのハイテク建築について。ノーマン・フォスターのセンズベリーのアートギャラリーを中心に、ロジャースの建築等。イギリスの産業革命以来の脈々と流れる機械好みについて。十三時北京P打合わせ。昼食はサンドイッチとミルク。石井よりGスタジオの報告聞く。中谷、森川両先生に頑張つてもらっている。十五時前照明デザイナー長町志穂さん来室。九州O邸打合わせ。十八時迄。その後北京計画打合わせ。

北京PのあとO邸他住宅設計打合わせ。ヘルベルト、大沢温泉打合わせ。二十二時四十五分迄。二十四時前世田谷村。晩飯抜きだったので一人おそい夜食を食べる。二十五時休む。